

福島と私たちをつなぐ ひまわりプロジェクト

復興へ向けてひまわりを育てませんか

被災地に代わって花を育て、障がいがある人の仕事の支えに

「ひまわりプロジェクト」では、みなさんが育てたひまわりの種を使い、福島県のNPO法人シャロームで障がいのある人たちが加工品をつくっています。地域の復興支援に役立つ活動です。東日本大震災前、シャロームは福島県内でひまわりを育てていましたが、福島第一原発事故により不可能に。生活クラブでは、2014年度に一部の地域の組合員が栽培に参加したことから始めました。ひまわりを育て、福島の復興を支えませんか。

※今回のプロジェクト費用は、災害復興支援カンパ基金から拠出します

ひまわりプロジェクトの参加方法

申し込み締め切り

3/25火

ひまわりプロジェクト専用のWEBフォームから必要事項を記入して参加申し込みをしてください。1口6粒入り。1回の申し込みで3口まで可能です。

申し込みはこちらから

生活クラブ ひまわり 検索

参加者募集!



※応募多数の場合は、抽選となることがあります ※福祉クラブ、京都エル・コープ、エスコープ大阪では実施しません

ひまわりプロジェクト参加の流れ

1 WEBフォームから申し込み※

WEBフォームに必要事項を記入して、「ひまわりプロジェクト」に参加しましょう。

※WEBフォームを使用できない方は最寄りの配送センター、またはデポーへお問い合わせください

2 4月下旬までに種と育て方ガイドが届く

配達便でお届け、またはデポー店頭でお渡しします。一部地域では郵送でお届けすることもあります。

※「ひまわりプロジェクト」のひまわりの種は、Non-GMで搾油に適した専用の種です ※国内種が入手困難のため、アメリカ産となります



3 ひまわりを育てる

生活クラブから届いたひまわりの種を植えて、大きくなるように育てましょう!



※時期は地域によって差があります

4 種を収穫し、各自で発送

収穫した「ひまわりプロジェクト」のひまわりの種を、専用封筒に入れて各自でシャロームに発送。

※送料は自己負担になります
※発送する種は、ほかのひまわりの種と混ざらないようにしてください

みなさんの種がひまわり油やせんべいに!

シャロームに送られた種は、福島県の製油所で搾油します。約1kgの種から1本分のひまわり油ができます。作業所で商品のラベリングや梱包作業をして完成! ひまわり油を使ったせんべいもつくっています。



NPO法人
シャローム代表
大竹 静子さん

ひまわりは共生社会のシンボルに

震災と原発事故から14回目の春を迎えました。地震・津波の傷跡を目にするのはほとんどなくなりましたが、原発事故は、溶け落ちたデブリの取り出しにやっと成功したという状況で、いまだ終息せず続いています。しかし、国は原発回帰の姿勢を鮮明にしています。事故を起こした原子炉と同型の原子炉もすべて再稼働しています。原発事故の記憶の風化が心配されます。

「ひまわりプロジェクト」は、原発事故を契機に開始された「共生社会」をめざすシンボル事業です。ひまわりは、私たち人間に自然との関わり方を教え、人と人が助け合うことの素晴らしさを教えてくれています。ひまわり一粒の命に優しく向きあうとき、みなさんと共にめざす「共生社会」への一筋の光が見えてきます。誰もが支えあって生きていける社会を共にめざして行けることを願っています。

NPO法人シャローム

福島県を拠点に、障がいを持つ人、持たない人がともに生きるまちづくりをめざし、「ひまわりプロジェクト」をはじめ福祉支援や交流会などさまざまな活動を行なっています。

シャロームと「ひまわりプロジェクト」について動画でも紹介しています▶

